



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第16巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	国民社会の研究各論 第1章 : 序説生活構造序説 『鈴木栄太郎著作集 7 (国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である (同書内での言及による)。
Issue Date	1962-04-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77585
Type	manuscript
File Information	I019_0116.pdf



16

26

NOTE BOOK

MADE OF FINEST PAPER
PREPARED IN TOKYO

國民社會の研究
第十六卷

昭和二十七年十一月七日

A4

16

目次

戦場が世帯をリットしている家	1
市民の生活が都市の戦場には関係ない	3
戦場の子にあげた支那の戦場は何か	7
戦場の子の関係の終制	
日本の地政学における都市の位置	10
津田村を著者の史観	17
都市の発展の仕方の都市の位置と役割	21
都市の発展の仕方の都市の位置と役割	23
都市の発展の仕方の都市の位置と役割	26

職場が世帯をリードしている実

職場が世帯を引きつづけている実

和は次の様な場面に現れるものである。

(一)生活するが職場中心 (二)主要生活は

家でその決定権力の存在は職場

時の長さ、世帯内全人の生活時

に及ぼす職場時の影響、若世帯

新住宅及び都市新住宅、又持

有別住宅の比較。

(二)住居未満とする職場中への傾向

その形として就職する場合

の転任の場合

(三)都市人口集中の要因は就職のため

1

1. 都市は多岐多様な生活のなすところ
 農村は生活が既定のなすところ
 青年教育者の養成
 農村の教育に道徳を教える
 都市に道徳を教える

都市の模国の中特に経済模国
商業模国、工業模国、技術模
国の三者に国民生活は依存
するところ大である。

生活が都市の模国に依存してゐる
国民は今では商売を営む者ばかりは
一はし平定な生活は出来ない。その何
れの商売も都市の工場に必要で都
市の商業活動によつてのみ成り立つ。
都市の模国の活動に依存する
型には農民も工場の労働者も
なれない。

今日では都市はもう資本の手に握ら
れ、食料に依存したつて、即ち金に
民が商売業者となり、都市に資本
を投入して生活して行けと見做さる
え方にある。商工業は先づこの

例を見ても決して不安定なものではない。
野党はもう気になつた勢で退下は出来
ないが、始終自退すゝすゝ必要としな
い。憲法上のものからいへば、さうい
ふことは金口氏も都市の生業に依
存して生活してゐるから決して退
下してはならない。日本の食料を食ふのは
わが國大母の食料にすぎない。

今日の日本の民の生活の中核を

口民の生活には

このものは都市の核である。

い。食料は姑く除いて考えれば、い
である。農林は食料は食料、生活の根本的

構成部分である。けれどもこの後部部
分は矢張り不可欠の後部部分である。
それは影の形にしろ様にはわが後部可
の後部部分である。後部は都市の
東部部分である。けれども都市におい
て何れか他をリートする立場にあるか
と云へば構図である。五つあるである。
構図には不図の様に後部がある。わ
けはなすめ。けれども骨組を知らぬに
は構図の規模や構造をよへる。自然
後部の規模や構造が定まるのである。か
うして表裏の二面をよへる構図
が

の位思や精進によつて自來に依居の如
きも精進を怠りて得よと云ふ所の

ナリセ

日本の経済はこれである。これは統治は元々生活の
中絶と息絶である。すなわち官憲民平。政
に民生生活の指導力は統治活動と看做
さるべきではない。故に指導力から又は支
配力が過剰であるのは商工業の活動である。
口民生生活は商に依存するは今日では
一も過剰である。故に統治機同と商
工業機同の二種の配置に民生
生活の骨格を認むるには必然性あり
であるであろう。

機同すにあらざる配何機同は何か

同種機同すにあらざる配何機同は何か

大規模機同すにあらざる配何機同は何か

機同規模の大なり協力生業作

とレの意味

上級機同下級機同。別

異種機同すの支配関係大小関係

係

異種機同の交流と口民社会

市場にかけよ交際の原理

人同生活にかけよ共同関心の機

別と機同の機同

共同関心の機同による優位比率

優待比率の最大の共同関心事項
共同関心事の優待比率体系
最大の共同関心事項としての生
命保持

衣食住の優待比率体系における
位置

衣食住と経済

九種の関関の中で経済関係の

は、^の商業、^は工業、運輸、通信の
四種である。保安の二種と
教育、宗教、娯楽の三種は直

接し経済に関係を出ていない。

工学

故に商業（銀業）技術業（井戸業）

運輸近代の四種の機関に人民

生活の大綱を記す（大綱）

商業的機関の大綱と技術的機関の大綱（大綱）

の配置に人民生活の骨格を

見よ（大綱）（大綱）

力人を教下し（大綱）

十一月

成員が今期更新する。これは七百二十人
を要する。りになる。
全部が新成員になる。これは三百六十人
を要する。

る。は七百二十人の故で毎年一人づつと
ある。りである。# 三百六十人に一人づつ毎年

をわす事によつて更新される。それによ

更新によつて自然形成の更新は大勢

に於いてはその木の状態による更新と

強と差異はない。かへつて、社会意識

による相互拘束の因の相互的関係

はかくの如き自然更新によつて永

かに存続して来たのである。か、その

や過剰と現在が連続してつては精神

の好む的流れに動いてゐる。その

を現ある。う。困難した優位や

意主による国家と金庫がそのまゝに
存続するとかのつてはな^ういふ五人な金庫
が客観的に国家として存在する
次に村人が^{実際}追及していきまゝのつ
はれし、^{そのまゝ}形骸^にによる相互要求
の同氏が打張するとかのつてはな
う、^{そのまゝ}形骸の内容は時代と共に
少づつ変化していき相違ないが、^{そのまゝ}
生活環境^にある自然と人との大抵
に存続するものかといふに、^{そのまゝ}形骸
の房も大抵にはそのまゝのまゝのま
ういふあらう、とにかく大きな変化

と時を的すは ^大 其國は ^{絶對に} あり ^一 瞬に

と完全に変化する ^{絶對に} はなへてあること

我われがけし愛は ^{絶對に} 丁度と来るおの

大変化を来したのつあり ^{絶對に} 思ふ

か、その賜 ^と あり ^と ねと ^と 完全

切斷 ^と され ^と かく ^と あり ^と ねと

なく ^と ね ^と の ^と 行く ^と 説明 ^と 有 ^と なく ^と ね

自分 ^{自分} に ^{自分} とい ^{自分} せ ^{自分} せ ^{自分} 親 ^{自分} 伯 ^{自分} が ^{自分} ある ^{自分} て ^{自分} ね ^{自分} ね

村人 ^{村人} 如 ^{村人} 皆 ^{村人} な ^{村人} り ^{村人} くの ^{村人} 行く ^{村人} 説明 ^{村人} 有 ^{村人} なく ^{村人} ね

以下 ^{以下} 其 ^{以下} 村 ^{以下} の ^{以下} 共同 ^{以下} の ^{以下} 手段 ^{以下} で ^{以下} 共同 ^{以下} 劃

作 ^作 る ^作 て ^作 あり ^作 う ^作 就 ^作 帝 ^作 に ^作 あり ^作 ね ^作 ね ^作 の

日本人 ^{日本人} は ^{日本人} 自分 ^{日本人} 自身 ^{日本人} に ^{日本人} なる ^{日本人} 同 ^{日本人} かせ

革命があらたなことをいふは
生活の一部をいかに
変革する他の國に
へきである

あの時代の国民精神を思い出し見よ
かあ。

日本の社会は過去に遠く脱却には
なっていない。これは村田さんといふ文士にな
く都市におうと躍りである。

都市というものは成長は知覚的要素
によつて成長してゐる。アフリカの都市
は（躍り）お落しなうた（あ）黒
人ばかりで一方は集めて作つて居る
都市である。散らかる大衆的の
あゝそれ故に日本の都市は
都市の更新の故に成長して来ん。

日本

※~~は~~に社会福祉の基盤的力
針の樹多の力にはこの点を見落す
さでいなく、アタリは社会福祉の基盤を
そのまゝホンヤリして適用するべきであらう。
戸籍法の整備は大化の改訂以来ではない
のか、日本統治文化の時代もそこにある。
生業者の出入りにおける秩序も見落
してはならない。所謂テリトリーの管理に
あつた。

わが国経済の停滞が甚だしく、その
ゆゑの~~経済~~を大抵にねじりつゝなく
増大してゐる。江戸時代、代官の制度
が、増大するにつれて、修てゐるが、今
も有つていゝと云ふ。新卒の増加の中
は、いかに大卒の増加は、いかに成長してゐ
る。アメリカの社会と日本の社会を
居を同じうして、理解する。この国
情は、若くしてある。

十月八日

津田左右衛門の史観

口民と民族の別についての所考
の意は一考の價いがある。

上田のオオバ口家成
立史の研究 392

大更替の見方には意見がある。

現代下建るまでは口民市場の成立の時代

かゝ口家の成立を認められざるは

民族体としていふ中は異論あり

得と云ふや

都市的模写

都市的模写は結晶的模写である。その模写形式より云へば生業共同模写であるとしても過言ではない。

近代の都市的模写はその上大規模と云ふ性格を思ふより云ふべき。故に

近代の都市的模写は大規模の生業共同模写である。それゆゑ都市

的であるとは向端である。都市的

の云ふ模写は自然の足る不可缺り

す。都市的模写は存在し得ないの

である。年々一回星の制作を為

る化する大芸術家の生業はやま

都市的ではない、それは田舎の中の
皇都である。

近代の都市に於ける資本主義
共同性をなす、特に戦後には
生産者共同性、その組織が
大きく、一人の資本家の不利
な力を排除してそのマスの力に
ほころび、その弱さである。

近代の都市的振興は巨大な資本
振興力体である、その特徴
を、常に愛、その傾向に向いて
あると見、よみかある。

十一月十四日

口尾港の内の何れの都市の位置と役割

何れの行ぬべき体制の及ぶその位置

と割賦に際して割賦額を配する

割の口尾港の内の何れの都市は

その都市の位置と役割を明らかにす

の都市の位置と役割を明らかにす

活動してゐるものである

その都市の位置と役割を明らかにす

にす。それは既に述べた通りである

都市の位置と役割を明らかにす

を中絶するが、その都市の

下級品類との関係と上級品類との

関係を知り得るなり。その大略

を知りてある。余の青森
河の山村より松がを經て東京に
つたから松がは左の一側である。
九河の山村が左の東京にある。
お下の町は松がの位置を役所
も同様である。は本町に何れ
のとつたが左の河も松がの左にある。

十月十一日

都市的機國の中特に主導的なるものと
日本の統治文化

日本の都市では統治的機國を中心の
位置にあつて他の機國を支配し統制
してゐる。統治機國の周圍には他の機
國が集まる。最高級の統治機國の周
圍には他の各級の
機國が集まり中級の
統治機國の周圍には他の各級の
機國の中級の機國が集まる。此原則
は日本の都市には原則的に適用さ
れる。統治機國の
位置他の機國の位置は中級の
機國の位置の如くである。

不特殊の明白な現由によゝものでござん
も原則は能れどは、たゞ、その

日本に於ける、の席位

都知人に程、お直ちに都知府

同の位を承して、いゝ結果に

いゝか、両方お平解した、程く少費

の例外は、それ、明白な現由を存

ていゝ。人に、お、お、か下、同、は、なく

二人に、ある、現由、お、お、お、の、お、

お、津に、ある、四、日、市、に、ある、現由、は

明白である。それは、それ、それ、それ、それ、

別を、お、お、お、お、お、お、お、お、

生きているものである。

その~~際~~で、都市の支配力と素朴
すいものとして統治機関とその規模
と係数を見逃す事は出来ない。
然るに統治機関の次に支配力を
持つのは機関としては何れも機関
を介する事である。

都市の新工業機関

国民の生活は今日では都市に
あり、新工業の機関に依る。そ
れには一日も生活する事は出来
ない。

国民生活の日常の生活と直接
に支配してゐるのは都市の新工業
の生活である。都市の新工業の
機関の生活はそのまゝ、その国が國
家の国民の生活の基礎を成は
してゐるものである。

新工業の機関とその後の機関の
間には、地価と賃金は、毎

化するものではなく、大抵に国家として
いふところがある。

故に民生生活の骨格めとして考え
ていふ民衆生活の社会構造の
国形には統治機関と共に商工業
の機関の地位と役割を明ぼす
標識を表示する事が必要である。

ここに地位とは上級下級東洋社会
の系統図式の内、位置であり
役割は機関の図表である。

上級東洋社会は首都を上限とし
下級東洋社会は地方山岳部である。

28

と下限とす。